

# 『プログラミング言語の形式的意味論』 正誤表

末永 幸平      勝股 審也      中澤 巧爾      西村 進      前田 敦司

最終更新: 2023 年 2 月 6 日

## まえがき

- 「本書の使い方」の段落において第 13 章と第 14 章に言及がありますが，本翻訳ではこれらの章は割愛されています。

## 第 1 章

- P.3, 1.2 節, 第 2 段落: 「 $X$  と  $Y$  が等しいことを示す方法の一つである」とあるのは「 $X$  と  $Y$  が等しいことを示す方法の一つである」の誤りです。
- P.9, 1.3 節, 第 4 段落: 「 $X$  から  $Y$  の部分関数」とあるのは「 $X$  から  $Y$  への部分関数」の誤りです。

## 第 2 章

- P.22, 2.3 節:  $b_1 \wedge b_2$  のための操作的意味論の 3 つ目の規則が

$$\frac{\langle b_0, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{true} \quad \langle b_1, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{true}}{\langle b_0 \wedge b_1, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{false}}$$

とあるのは

$$\frac{\langle b_0, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{true} \quad \langle b_1, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{true}}{\langle b_0 \wedge b_1, \sigma \rangle \rightarrow \mathbf{true}}$$

の誤りです。

- P.24, 問題 2.7: 「 $w \sim \mathbf{if } b \mathbf{ then } (c; w) \mathbf{ else skip}$ 」とあるのは「 $w \equiv \mathbf{while true do skip}$ 」の誤りです。
- P.25, 2.5 節, 第 3 段落: 「状態を変えずにすぐ停止するだろう」とあるのは「状態を変えずにすぐ停止するだろう」の誤りです。
- P.29, 2.6 節, 第 2 段落: 「状態  $\sigma$  において  $a_0$  の 1 ステップの評価によって式  $a'_0$  と状態  $\sigma'$  が得られるとき,  $a_0 + a_1$  の状態  $\sigma$  の下での 1 ステップの評価によって式  $a'_0 + a_1$  と状態  $\sigma'$  が得られる。」は「状態  $\sigma$  において  $a_0$  の 1 ステップの評価によって式  $a'_0$  と状態  $\sigma$  が得られるとき,  $a_0 + a_1$  の状態  $\sigma$  の下での 1 ステップの評価によって式  $a'_0 + a_1$  と状態  $\sigma$  が得られる。」の誤りです。

### 第3章

- P.35, 3.2 節, 第2段落: 「すべての位置  $X$  について」は「すべてのプログラム変数  $X$  について」の誤りです.
- P.41, 3.3 節: 「 $\langle \text{Euclid}, \sigma'' \rangle \rightarrow \sigma''$  となる  $\sigma''$  が存在する」は「 $\langle \text{Euclid}, \sigma'' \rangle \rightarrow \sigma'$  となる  $\sigma'$  が存在する」の誤りです.
- P.46, 3.4 節: 「性質が偽となる最小の導出が存在するという仮定」は「性質が偽となる極小の導出が存在するという仮定」の誤りです. また, 命題 3.12 の証明において, 「最小の導出  $d$  が存在して」は「極小の導出  $d$  が存在して」の誤り, 「 $d$  の最小性に矛盾する」は「 $d$  の極小性に矛盾する」です.
- P.46, 3.4 節, 命題 3.12 の証明: 「 $\exists \sigma, \sigma' \in \Sigma. \vdash \langle w, \sigma \rangle \rightarrow \sigma'$ 」は「 $\exists \sigma, \sigma' \in \Sigma. d \Vdash \langle w, \sigma \rangle \rightarrow \sigma'$ 」の誤りです.
- P.46, 3.4 節, 命題 3.12 の証明:

$$d = \frac{\frac{\vdots}{\langle \text{true}, \sigma \rangle \rightarrow \text{true}} \quad \frac{\vdots}{\langle c, \sigma \rangle \rightarrow \sigma''} \quad \frac{\vdots}{\langle \text{while true do } c, \sigma'' \rangle \rightarrow \sigma'}}{\langle \text{while true do } c, \sigma \rangle \rightarrow \sigma'}$$

は

$$d = \frac{\frac{\vdots}{\langle \text{true}, \sigma \rangle \rightarrow \text{true}} \quad \frac{\vdots}{\langle \text{skip}, \sigma \rangle \rightarrow \sigma} \quad \frac{\vdots}{\langle \text{while true do skip}, \sigma \rangle \rightarrow \sigma'}}{\langle \text{while true do skip}, \sigma \rangle \rightarrow \sigma'}$$

の誤りです.

- P.46, 3.5 節: 「コマンド内で, 代入の左辺に現れる位置の集合」は「コマンド内で, 代入の左辺に現れるプログラム変数の集合」の誤りです.
- P.47, 3.5 節: 「実際, 整礎な集合の任意の空でない部分集合には最小の要素が存在するという命題 3.7 の証明の中では, 暗黙のうちに自然数の帰納的な定義を用いて, 空でない集合中に最小の要素を持つ列を構成した.」は「実際, 整礎な集合の任意の空でない部分集合には極小の要素が存在するという命題 3.7 の証明の中では, 暗黙のうちに自然数の帰納的な定義を用いて, 空でない集合中に極小の要素を持つ列を構成した.」の誤りです.

## 謝辞

本翻訳の誤りをご報告いただいた以下の方々に深く感謝申し上げます: gaxiiiiiiiiiii 様, hackermaskee 様, 衣笠公陽様.